

IBM Unica Campaign
バージョン 8 リリース 6
2012 年 5 月 25 日

リリース・ノート

IBM

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、25 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Campaign バージョン 8 リリース 6 モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Unica Campaign
Version 8 Release 6
May 25, 2012
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 1998, 2012.

目次

第 1 章 システム要件と互換性	1	第 6 章 Campaign Reports Package	17
第 2 章 バージョン 8.6.0 の新機能と変更 点	3	Campaign Reports Package の後方互換性に関する注 記	19
IBM Unica 製品の言語サポート	5	Campaign Reports Package の新機能	20
第 3 章 修正された問題	7	Campaign Reports Package の既知の問題	20
第 4 章 既知の問題	9	IBM Unica 技術サポートへの連絡	23
第 5 章 既知の制限	13	特記事項	25
		商標	27

第 1 章 システム要件と互換性

IBM® Unica Campaign は、IBM Unica Marketing 製品スイートの一部です。

Campaign バージョン 8.6.0 には Marketing Platform 8.6.0 が必要です。

完全なシステム要件と互換性情報の保管場所

この製品と互換性のある IBM Unica Marketing 製品バージョンのリストについては、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support>) の「資料」の下に掲載されている「*IBM Unica Compatibility Matrix*」や他の製品互換性資料を参照してください。

この製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」の資料を参照してください。このファイルは、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support>) の「資料」の下に掲載されています。この資料には、IBM Unica Marketing にログインしているときに、「ヘルプ」>「製品資料」を選択することでもアクセスできます。

追加されたサポート

Campaign バージョン 8.6.0 では、以下のサード・パーティー・ソフトウェアのバージョンに対するサポートが追加されました。

クライアント・ブラウザ

- Microsoft Internet Explorer 9 が、サポートされるブラウザのリストに追加されました。

オペレーティング・システム

Campaign バージョン 8.6.0 では、以下のオペレーティング・システムに対するサポートが追加されました。

- Solaris 11.1 (64 ビット)
- RHEL 5.7 および 6.1 (64 ビット)
- SLES 11.1 (64 ビット)

中止されたサポート

Campaign バージョン 8.6.0 では、以下のサード・パーティー・ソフトウェアのバージョンはサポートされなくなりました。

表 1. サポートが中止されたサード・パーティー・ソフトウェア

アプリケーション・サーバー	オペレーティング・システム	システム・テーブル・データベース	ユーザー・テーブル・データベース
WebLogic 9.2	SLES 9	DB2 [®] 9.1	DB2 9.1
WAS 6.1	Windows Server 2003	SQL Server 2005	SQL Server 2005
	RHEL 4.x	Oracle 10.2	Oracle 10.2
	すべての 32 ビット・サポート		
Report Server			
Cognos [®] 8.4			

データ・マイグレーションとアップグレード

Campaign 8.6.0 には、Campaign バージョン 7.x 以降からアップグレードできます。詳しくは、「*Campaign* インストール・ガイド」を参照してください。

7.x より前のバージョンを使用している場合、データ・マイグレーションを実行しなければなりません (直接 v8.6.0 にアップグレードすることはできません)。詳しくは、「*Campaign* データ・マイグレーション・ガイド」を参照してください。

第 2 章 バージョン 8.6.0 の新機能と変更点

このセクションでは、Campaign バージョン 8.6.0 の新機能および変更点について説明します。

IBM Coremetrics® オンライン・セグメント統合

IBM Coremetrics がある組織では、Campaign フローチャート内で IBM Coremetrics からのオンライン・セグメントを使用できます。この統合が設定されていると、Campaign ユーザーはキャンペーンのビルド時に選択プロセス・ボックスで IBM Coremetrics 定義セグメントを選択できます。

この機能をサポートするために、以下の構成設定が追加されました。

- 「Campaign | partitions | partition[n] | server | internal | UC_CM_integration」: 選択されたパーティションのオンライン・セグメント統合を有効にします。
- 「Campaign | partitions | partition[n] | Coremetrics」: 選択されたパーティションのオンライン・セグメント統合を設定します。
- 「Coremetrics セグメントのアクセス (Access Coremetrics Segments)」 (「設定」 > 「ユーザーの役割と権限」 > 「キャンペーン」 > 「パーティション[n]」 > 「グローバル・ポリシー」): どの Campaign ユーザーがフローチャート内の IBM Coremetrics セグメントを使用できるかを指定します。

さらに、シングル・サインオン (SSO) を設定して、ユーザーが IBM Unica Marketing と IBM Coremetrics の間をシームレスに移動できるようにすることができます。

詳しくは、以下の資料を参照してください。

- SSO を設定するには: 「IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド」を参照。
- オンライン・セグメント統合を設定するには: 「IBM Unica Campaign 管理者ガイド」を参照。
- オンライン・セグメントを選択プロセスで使用するには: 「IBM Unica Campaign ユーザー・ガイド」を参照。

セッション・タイムアウト

セッション・タイムアウトは、Web アプリケーション・サーバー・コンソールを使用して設定されるようになりました。以前のリリースでは、セッション・タイムアウトは Campaign web.xml ファイルを変更することにより調整されました。詳しくは、「IBM Unica Campaign インストール・ガイド」を参照してください。

カスタム属性に対する機能拡張

以下のように、キャンペーン、オファー、およびセルのカスタム属性を定義する際に、管理者は以前よりも制御できるようになりました。

- 選択ボックスのドロップダウン値のソート順を制御できる (ENH09359)

- 属性のデフォルト値を指定できる (ENH09297)
- カスタム属性を「必須」にすることにより値を要求できる (ENH09298)

詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

CreativeURL 属性によりMarketing Operations 資産を Campaign オファーに関連付けることができる (ENH11562)

新しい標準属性 (CreativeURL) により、Marketing Operations のデジタル資産を Campaign のオファーに関連付けることができます。

- 前提条件と設定手順については、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。
- キャンペーン内のデジタル資産の使用法について詳しくは、「*Campaign ユーザー・ガイド*」を参照してください。

注: 6.4 から 7.x と 8.5 の間のいずれかのバージョンへのマイグレーションを行い、現在 8.6 にアップグレードしようとしている場合、『*既知の制限*』のアップグレード・シナリオに関する注を参照してください。

新しいマクロ ADD_MONTHS (ENH04423)

新しいマクロ ADD_MONTHS は、指定の日付に指定の月数を加算し、日付を返します。例えば、ADD_MONTHS(12, '06-25-11') は指定された日付に 1 年 (12 カ月) を加算し、日付 06-25-12 (2012 年 6 月 25 日) を返します。詳しくは、「*IBM Unica IBM Unica Marketing のマクロ ユーザー・ガイド*」を参照してください。

ASMSaveDBAuthentication=FALSE を指定した unica_acclean を使用してデータベースをスキャンできる (ENH11141)

ユーザーが任意の数のデータ・ソースにユーザー名とパスワードを指定できるようにするコマンド・ライン・オプションが、クリーンアップ・ユーティリティー (unica_acclean) に追加されました。これらのオプションを使用すると、Marketing Platform に保管された資格情報を上書きしたり、ASMSaveDBAuthentication が FALSE に設定されているデータ・ソースに認証を提供したりすることができます。詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

全レコードの合計をセグメント・クロス集計レポートに表示できる (ENH11325)

どのキューブ・プロセス・ボックスについても、セグメント・クロス集計レポート (セル値「カウント」付き) は、すべてのレコードの合計を表示するようになりました。

unica_svradm CONNECT コマンドが SSL に対応

Campaign Server Manager ユーティリティー (unica_svradm) の CONNECT コマンドには、ポートを指定するときの新しいオプション [-S] があります。-p オプションを使用してポートを指定する場合、-S も含めることにより、SSL 接続を確立するように指定することができます。

CreateSeg プロセスの session_name.__# ファイルがオプションで作成される (ENH10697、INC61600)

CreateSeg プロセスは、「Configuration | Campaign | partitions | <partition #> | server | optimization | doNotCreateServerBinFile」プロパティが FALSE に設定されているか、UA_SegMembership テーブルが関連するオーディエンス・レベル用にマップされている状況でのみ、分析サーバーに対する自分の ID をデータベース・テーブルから取得するようになりました。

IBM Unica 製品の言語サポート

この IBM Unica リリースでは、実質的にすべての製品資料と製品のユーザー・インターフェースが以下の言語で使用可能です。

- ブラジル・ポルトガル語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- 中国語 (簡体字)、GB18030 要件の準拠を含む
- スペイン語

IBM Unica 製品でのロケール設定について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

注: 「ヘルプ」メニューを使用してオンライン・ヘルプや他の資料を開くと、ロケール設定が使用され、それに一致する言語の資料を自動的に表示されます (使用可能な場合)。

第 3 章 修正された問題

このセクションでは、Campaign 8.6.0 で修正されている問題を、問題番号順にソートしてリストします。

表 2. Campaign の修正された問題

問題 ID	説明
DEF007652	セル・クロス集計レポートで、NULL 値がデータに存在する場合に、NULL 値が表示されません。
DEF010207	CH テーブル・マッピングを更新しても、既存のメール・リスト・プロセス・ボックスが更新されません。新規作成されたプロセスには変更内容が反映されますが、既存のプロセスには反映されません。
DEF012289	svradm でセッションを実行する際に、GUI ビューが更新されません。GUI には、処理が完了したことを示すチェック・マークが表示されますが、実行中のユーザーが実行中のプロセス・ボックスに表示されません。
DEF026034	メール・リスト・プロセスとスケジュール・プロセスのトリガー・フォルダーが、アルファベット順に並んでいません (INC23552)。
DEF034582	eMessage プロセス・ボックスへの入力の順序により、OLT に対する異なる SQL が生成されます。
DEF040802	永続的なユーザー定義項目が存在すると、他の PDF の計算が変わります。
DEF054437	アップグレードによって config.xml ファイルが上書きされて、リスナーを開始できません。
DEF055116	ユーザー変数値にスペースが含まれていると、スケジューラーが失敗します。
DEF057504	フォルダー名またはキャンペーン名を変更すると、スケジュールされたフローチャートが失敗します。
DEF058737	回収されたオファーを削除できません。
DEF059835	日本語 (ja_jp) ロケールのフローチャート・データの収集により、unica_acsvr サーバー・プロセスがエラー 10404 で失敗します。
DEF059887	サイレント (不在) インストール時に、Campaign インストーラーの自動データベース更新機能を使用できません。
DEF059889	Campaign の以前のインストール済み環境を現行バージョンにマイグレーションする際、IBM Unica Interact がターゲット・セットアップでインストールされている場合に、ステージ 3 のタスク 309 が失敗します。
DEF059901	Campaign のアップグレードを UNIX にインストールすると、無効なバックアップ・パスに関するエラーが報告されることがあります。
DEF060864	出力セル名 - 名前変更されたセグメント名が保存されません。
DEF061156	フラット・ファイルのインポート時に、項目のデータ長が正しく解釈されません。
DEF061216	ターゲット・セルを、オーディエンス・プロセスの入力として使用できません。
DEF061320	TCS で、80 行と 160 行の後に、問題となる行が表示されます。
DEF061352	行が選択されていないときに TCS で行の削除が行われると、Campaign ホーム・ページが開かれず。
DEF061378	2 つのデータ・ソース、セグメント、マージ、および UseInDB の使用時、レコードの数が正しくありません。データベース内最適化が有効な場合に、複数のデータ・ソースのテーブルを使用して、相互に排他的なセグメントを作成するよう構成されたセグメント・プロセスで、無効な出力が生成されました。
DEF061785	古い抽出一時テーブルが、Teradata データ・ソースからドロップされません。

表 2. Campaign の修正された問題 (続き)

問題 ID	説明
DEF061819	Campaign 8.5 インストール・ガイドに、WebSphere® 用の構成ステップがありません。
DEF061961	192 バイトを超える Unicode のマルチバイト文字のキャンペーン名を保存しようとする、Campaign のエラーとなります。
DEF061962	TCS において、セル属性の 2 度目の保存では、更新日が変更されません。
DEF062055	元のセル属性値を使用して、テンプレートからフローチャートが作成されます。

第 4 章 既知の問題

このセクションでは、Campaign 8.6.0 における既知の問題を、問題番号順にソートしてリストします。

表 3. Campaign の既知の問題

問題	問題 ID	説明
UNIX のコンソール・モードでインストーラーを実行している際のメッセージ	該当なし	UNIX コンソール・モードでインストーラーを実行している際、インストーラーの .bin ファイルが見つからなかったことを示す通知メッセージが表示されます。このメッセージは無視して構いません。
非 ASCII データのマイグレーション後に、フローチャートを開くことができない	該当なし	非 ASCII データを Campaign 8.6 にマイグレーションした後、ターゲット・システムでキャンペーン・フローチャートを開くことができない場合があります。セッション・フローチャートは正常に開きます。この問題を回避するには、上書きモードでキャンペーンを再度マイグレーションします。これで、フローチャートを開くことができます。
Campaign 定義項目の日付形式が、非米国ロケールで、常に MM/DD/YYYY 形式で表示される	DEF15427、 INC13930、 INC14653、 INC18663	Campaign 定義項目の RunDate、CampaignEffectiveDate、および CampaignExpirationDate 項目が、次のロケールで、DD/MM/YYYY の日付形式ではなく米国形式 (MM/DD/YYYY) の日付形式で表示されます。イギリス英語、ドイツ語、およびフランス語。
クロス集計レポートを Excel にエクスポートすると、Internet Explorer のエラーが発生する	DEF010889	多数の bin が含まれるキャンペーン・クロス集計レポートによって、固有値を数多く含むデータが処理されるときに、エラーが発生します。回避策は、bin の数を少なくすることです。
Marketing Operations との統合が無効にされた後に、INTEGER または BOOLEAN のキャンペーンまたはセルの属性を編集できない	DEF045780、 DEF045790	<p>この問題は、Marketing Operations と Campaign の統合環境に関係するものです。この問題は、Marketing Operations との統合が後に無効にされた場合に発生します。Marketing Operations で作成された、INTEGER 型または BOOLEAN 型のキャンペーンまたはセルのカスタム属性は、統合が無効にされた後に、Campaign で次の制約を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> これらの属性の値を Campaign で表示できません (それらは空白となります)。 これらの属性の値を Campaign で編集できません。 <p>これらの属性は、Marketing Operations から最後に発行された値を含んでおり、以前のように出力/使用することができますが、それらの値を Campaign で表示することはできません。</p> <p>Marketing Operations との統合が後に無効になる可能性がある場合は、INTEGER 型または BOOLEAN 型のキャンペーンまたはセルのカスタム属性は使用しないでください。</p>

表 3. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
「テーブル・マッピングの管理」のクリック時に発生する HTTP セッションのタイムアウト	DEF053526、 INC46363、 INC47717	この問題は、Weblogic のバージョン 11g または 11gR1 でのみ発生します。回避策には、weblogic.xml ファイルを Campaign.war から取り出し、行を追加してから、そのファイルを Campaign.war に再パッケージする方法があります。回避策の手順については、「IBM Unica Campaign 8.6.0 インストール・ガイド」に説明されています。
CHANGEOWNER を使用してキャンペーン・オブジェクトの所有権を変更するコマンドを発行した際、変更内容がすぐにシステムに反映されない	DEF053978	Campaign では、管理者がすべてのオブジェクトの所有権を変更できます。オブジェクトの所有権が変更された場合に、キャッシュ設定の相違が原因で、その変更内容がシステム全体にすぐに伝搬されないことがあります。変更内容をすぐに反映させるには、Campaign リスナーと Web アプリケーション・サーバーを停止し、その後 Web アプリケーション・サーバー、次いでリスナーを再始動します。
eMessage プロセスで、すべてのユーザー定義項目においてディメンション・テーブルの使用がキャッチされない	DEF054842	eMessage プロセスで、すべてのユーザー定義項目においてディメンション・テーブルの使用がキャッチされません。
紛らわしいエラー・メッセージ	DEF054873	この問題は、Campaign と Marketing Operations の統合環境に関係するものです。この問題は、連携キャンペーンにグローバル・ポリシーを使用してキャンペーン・プロジェクトを作成し、次いでプロジェクト・セキュリティー・ポリシーを、キャンペーンの編集権限が含まれない既存のカスタム・セキュリティー・ポリシーに変更し、次いで連携キャンペーンを更新した場合に発生します。次のエラー・メッセージが表示されます。「キャンペーン更新中のエラー: uacPolicyName 属性値 (カスタム・ポリシー) が無効です。(Error while updating the campaign: uacPolicyName attribute value (custompolicy) is invalid.)」
製品 ID のインポート機能で、10 進数値を含む製品 ID が許容される	DEF054974	製品 ID のインポート機能で、10 進数値を含む製品 ID が許容されます。10 進数値を含む製品 ID は、許容されるべきではありません。
Campaign 7.x から Campaign 8.x へのアップグレード時に、特定のフォルダーがバックアップされない	DEF055033	いずれかの Campaign 7.x バージョンから Campaign 8.x にアップグレードする際に、temp、_uninst、および _jvm フォルダーがインストーラーによってバックアップされません。
2 つのセルからのカスタム TCS 属性が、2 つの選択プロセスで使用され、プロファイルされる際に、正常に表示されない	DEF055107	Campaign と Marketing Operations の統合環境における連携キャンペーン・フローチャートで、各々が別個のセルにリンクされた 2 つの選択プロセスを追加し、それら両方の選択プロセスをメール・リスト・プロセスにリンクします。それらのプロセスを実行し、次いでメール・リスト・プロセスでカスタム TCS 属性をプロファイルすると、一方の TCS セルに限り、TCS 属性のプロファイル値が表示されます。

表 3. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
キャンペーンまたはセッションの所有権を変更すると、対話式フローチャートと対話式セッションが失敗することがある	DEF055155、 INC65294	キャンペーンまたはセッションの所有権を変更すると、関連付けられた対話式フローチャートと対話式セッションが失敗することがあります。
関連付けられた製品に関する情報が、UMO 側でオファーに表示されません。	DEF062333	関連付けられた製品を伴う Campaign で作成されたオファーが、Marketing Operations (UMO) でインポートされる際に、関連付けられた製品に関する情報が UMO で表示されません。
キャンペーン・カスタム属性の形式に関する、一貫性のないエラー・メッセージ	DEF062527	キャンペーン・カスタム属性のデータ形式が間違っている場合のエラー・メッセージ「無効なデータ形式 attribute_name (Invalid Data Format attribute_name)」では、カスタム属性でサポートされる形式が示されるべきです。
フローチャートの名前変更または移動が行われ、そのフローチャートのスケジュール 1 つが完了済みの場合に、フローチャート・スケジュールが失敗する	DEF062623	フローチャート・スケジュールが、エラー 701 で失敗します。
レスポンス日付に割り当てられたユーザー定義項目による、レスポンス・プロセス・ボックスの失敗 (DB2 の場合)。	DEF062846	システム・テーブルが DB2 に存在する場合に、レスポンス日付が、日付 (日時ではない) を返すユーザー定義項目に設定されていると、レスポンス・プロセスの実行が失敗します。
変換テーブルがマップされておらず、Coremetrics セグメントが入力である場合のエラー・メッセージが不正確	DEF063391	変換テーブルがマップされておらず、選択プロセスの入力として Coremetrics セグメントが選択されている場合に、「入力を選択されていません」という不正確なメッセージが表示されます。エラー・メッセージでは、Coremetrics テーブルがマップされていないことが示されるべきです。
Coremetrics 変換テーブルが、最初にマップされなかった場合に、セグメント・プロセス・ボックスで使用できない	DEF063392	変換テーブルが最初にマップされなかった場合に、変換テーブルまたは他のユーザー・テーブルをセグメント・プロセス・ボックスで使用できません。
TCS からオファーの「選択ボックス - 文字列」属性を編集しようとする、スタック・オーバーフローが発生する	DEF063408	文字列選択ボックス・タイプのカスタム属性が含まれるオファーを作成します。この属性は、編集フォーム内からのリスト項目の追加が許可されます。キャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) で、オファーをセルに割り当てます。値を追加または削除しようとする、スタック・オーバーフローが発生します。
数値ユーザー変数で、初期値または現行値において複数の値が許容される	DEF063429	数値ユーザー変数で、初期値または現行値として複数の値が選択または入力された場合 (すべての値が追加されます) に、不正確な値が表示されます。回避策は、単一の値のみを選択または入力することです。

表 3. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
重要でないアップグレード・ログ・メッセージ。	DEF063452 (DOC00681)	6.4 から、7.x から 8.5 までのいずれかのバージョンにマイグレーションし、次いで 8.6 にアップグレードする場合に、ID 15 の「クリエイティブ URL」が UA_AttributeDef テーブルに存在するならば、ac_upgrade.log に次のメッセージが記録されます: 「警告 upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [212] - SQL 更新の失敗: PRIMARY KEY 制約 'PK__UA_AttributeDef__0519C6AF' の違反 (WARN upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [212] - SQL updated failed: Violation of PRIMARY KEY constraint 'PK__UA_AttributeDef__0519C6AF')。重複キーをオブジェクト 'dbo.UA_AttributeDef' に挿入できません (Cannot insert duplicate key in object 'dbo.UA_AttributeDef')。エラー upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [82] - データベース・アップグレード・タスクの実行中のエラー (ERROR upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [82] - Error in execution of database upgrade task)。」これらのメッセージは、無視して構いません。
CreativeURL を使用し、Campaign TCS を介してオファーに添付された資産を編集できない	DEF063496	クリエイティブ URL 属性に添付された資産を使用して、Campaign からオファーを作成します。キャンペーンを作成し、ターゲット・セルおよびセルで、そのオファーをそのキャンペーンに割り当てます。割り当て済みオファー列で、そのオファーをクリックしてから、プレビューして編集します。「ライブラリーの参照」をクリックし、ウィンドウ内の任意の場所をクリックします。「行 :0 でスタック・オーバーフロー (Stack Overflow at line :0)」が表示されます。
CreativeURL を使用し、「自分の資産」リンクをクリックしたときエラー 5000 が発生する	DEF063499	このエラーは、Campaign から作成されたオファーに、資産が添付される際に発生します。クリエイティブ URL 属性を使用してオファー・テンプレートを作成し、「ライブラリーの参照」をクリックして資産を添付します。そのテンプレートに基づいてオファーを作成します。クリエイティブ URL 属性で、「参照」をクリックし、資産をクリックし、さらに「自分の資産」リンクをクリックします。エラーが発生します。
英語以外のユーザーの場合に、モデル・プロセスでエラー:14016 が返される	DEF063521	プラットフォームの言語設定が英語以外であるユーザーによって「すべてのアルゴリズム」が選択されている場合に、フローチャートのモデル・プロセスの実行が失敗します。
「任意の保存先に記録」でいくつかのセルが選択された場合に、ディクショナリー・ファイルが作成されない	DEF063533	「任意の保存先に記録」を使用してレコードを書き込み、「セルの選択」ボタンを使用してセルを選択し、「データ・ディクショナリー付きフラット・ファイル」に書き込みます。フローチャートは正常に実行されますが、.dat ファイルのみが作成されます。ディクショナリー・ファイル (.dct) は作成されません。

第 5 章 既知の制限

このセクションでは、Campaign 8.6.0 の既知の制限を問題番号順にリストします。

表 4. Campaign の既知の制限

問題	番号	説明
ターゲット・セル・スプレッドシートを開いたときに、カスタム・セル属性のデフォルト値が表示されない。	該当なし	デフォルト値は、最初表示されませんが、使用されます。TCS で、カスタム・セル属性をクリックするか開いて編集すると、表示したり変更したりすることができます。
Unica Campaign 定義項目 (UCGF) をプロファイルしても、正しい結果が生成されない。	該当なし	一部の UCGF の値は、セルまたは処理されるオファーに依存します。セル関連の UCGF の場合、プロファイル中は最初のセルに関連付けられた値だけが表示されます。
Campaign の以前のインストール済み環境のための CreativeURL アップグレード・シナリオ	該当なし	<p>CreativeURL 属性は v6.4 で導入され、v7.x で廃止され、v8.6 で再導入されました。アップグレードの影響は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 6.4 から 7.x と 8.5 の間のいずれかのバージョンへのマイグレーションを行い、その後 8.6 にアップグレードした場合、マイグレーションとアップグレードの後には、8.6 には 2 つの属性 ACx_CreativeURL および CreativeURL があることとなります。新しい CreativeURL 属性のみを使用すべきです。ACx_CreativeURL はテキスト属性としてのみ保持され、CreativeURL 機能は提供しません。 6.4 から 8.6 に直接マイグレーションを行った場合、既存のオファーに CreativeURL 用に指定された値があれば、マイグレーション・ツールはその値を 8.6 にコピーします。 7.x 以降の新しいインストール済み環境を 8.6 にアップグレードする場合、アップグレード・ツールは CreativeURL という新しい属性を追加します。
Campaign は、カスタム・キャンペーン属性またはカスタム・オファー属性の非文字列データ型のドロップダウン値をサポートしていない	該当なし	バージョン 6.x からのマイグレーション、またはバージョン 7.x からのアップグレードを実行しており、カスタム・キャンペーン属性またはカスタム・オファー属性に非文字列データ型のドロップダウン値がある場合、これらの値を含むセクションをソース・システムの unica_fldinfo.xml ファイルから削除してからアップグレードまたはマイグレーションを実行してください。これらの値を削除しないと、アップグレードまたはマイグレーション後にエラーが発生する可能性があります。
UA_UsrResponseType.Name 項目に制限された文字列を格納できない	該当なし	UA_UsrResponseType.Name 項目には、文字列 " (' (<スペース><左括弧><単一引用符>) を格納できません。

表 4. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	番号	説明
複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する	該当なし	<p>Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうちの 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまう場合があります。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマッピングする場合は、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>
WebLogic 11g と AIX® 6.1 以上	該当なし	<p>WebLogic 11g と AIX 6.1 以上を組み合わせで使用する場合、WebLogic のクラス・ロードの問題に対処するには手動の回避策を実行することが必要です。この回避策は、Campaign.war ファイルから xercesImpl.jar ファイルを削除して、配置する前に再パッケージすることです。詳細は「Campaign 8.6.0 インストール・ガイド」のインストール手順にあります。</p>
Campaign が構文解析できない区切り記号付きファイルを出力する場合があります	DEF011010	<p>出力を区切り記号付きファイルに書き込むときに、出力に区切り文字と修飾子文字の両方を含む値があると、出力ファイルは無効 (構文解析不可) になります。</p>
IBM Unica CustomerInsight のマルチ項目のオーディエンス・レベルは、Campaign で NetInsight の視覚的な選択と共に機能するよう構成しなければならない	DEF042248	<p>IBM Unica CustomerInsight がサポートするのは、単一のオーディエンス・キー項目で定義される 2 次オーディエンス・レベルだけです。マルチキーのオーディエンス・レベルは、EasySet の 1 次オーディエンス・レベル用に使用することはできますが、2 次オーディエンス・レベル用には無視されます。マルチ項目オーディエンス・レベルを 2 次オーディエンス・レベルとして分析のために使用する必要がある場合、これらの項目を関連付けられたオーディエンス・レベル定義がある単一の固有な ID に結合しなければなりません。</p>

表 4. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	番号	説明
形式が指定されている場合でも CURRENT_DATE マクロには常に時刻コンポーネントが含まれる	DEF041474	<p>推奨されているすべてのデータベースについて、Campaign はデータベースがサポートしている現在時刻の SQL 呼び出し (例えば、SYSDATE、GETDATE、DATE、TODAY など) を使用する CURRENT_DATE マクロをデータベースで実行しようとしています。このような場合、このマクロ関数のすべてのパラメーター (日付の形式を含む) は無視され、出力にはデータベースが返してきたものがそのまま含まれます (例えば、時刻コンポーネントが出力に含まれる場合もある)。</p> <p>この問題が発生して、日付のみ、または別の形式の日付を返す必要がある場合、未加工 SQL を使用する独自のカスタム・マクロを作成することも、他の IBM Unica マクロを使用することもできます。例えば、DATE_STRING(CURRENT_JULIAN(), ...) のようにします。</p> <p>CURRENT_DATE マクロが Campaign サーバーで実行されるという場合 (例えば、フラット・ファイルに対して実行される場合、対応する SQL サポートのない推奨されないデータベースに対して実行される場合、または Campaign マクロ式がそのデータベースで解決できない場合など) があります。このような場合には、すべてのパラメーターが認識され、出力は選択した形式で返されます。</p>
フローチャートの保存後に「キャンペーン・サマリー」ページに警告プロンプトが表示される	DEF045479	<p>フローチャート・ページで「保存して終了」をクリックすると、「キャンペーン・サマリー」ページに戻ります。Campaign がフローチャートの保存を完了する前に別のページに移動しようとする時、「OK」をクリックして変更をすべて破棄するよう促す警告ダイアログが表示される場合があります。「OK」と「キャンセル」のどちらをクリックすることもできます。フローチャート・ページは保存されます。</p>
DB2 および Oracle における非 ASCII 文字のマップ・テーブル名	DEF051097	<p>DB2 または Oracle データベースを使用する Campaign 環境において、プロセスの設定で新規マップ・テーブルを作成する際に、以下の条件により Campaign がプロセスを実行する際にエラーが発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定するテーブル名に小文字と非 ASCII 文字の組み合わせが含まれる場合。 テーブル名にプレフィックスを追加するデータ・ソース・プロパティ (例えば TempTablePrefix) に、小文字と非 ASCII 文字の組み合わせが含まれる場合。 <p>この問題を回避するには、テーブル名またはデータ・ソース・プレフィックスで非 ASCII 文字を使用する必要がある場合、大文字と小文字の両方の形式を持つすべての文字について大文字を使用します。例えば、français ではなく FRANÇAIS を使用します。</p>
未加工 SQL の IBM Unica 定義項目はセグメント・プロセスでサポートされない	DEF052919	<p>IBM Unica 定義項目はセグメント・プロセスで使用できないので、未加工 SQL の UGF もセグメント・プロセスではサポートされません。</p>

表 4. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	番号	説明
TempTablePool=True と TruncateSQL が設定されている場合、レスポンス・プロセスは実行できない	DEF052937	TempTablePool は DB2 システム・テーブルではサポートされておらず、DB2 のシステム・テーブルについては FALSE に設定しなければなりません。
実行されていない抽出プロセスから出力を取得するプロセスのディメンション・テーブルのプロファイルでエラー	DEF053929	抽出プロセスが設定されたが実行されていない場合に、抽出プロセスでマップされ、後続のプロセスで結合として使用可能なディメンション・テーブルの項目をプロファイルしようとする、エラー 1130 が発生します。この問題を回避するには、後続のプロセスで項目のプロファイルを行う前に書き込みプロセスを実行します。
存在しないまたは非アクティブなユーザー ID をオブジェクトの所有者として指定できる	DEF053932、 DEF053933	unica_svradm の CHANGEOWNER 構文を使用すると、存在しないまたは非アクティブなユーザー ID をオブジェクトの所有者として指定できます。
ac_populate スクリプトを手動で実行する場合は、システム・テーブル・データベースで autocommit を "true" に設定する	DEF058955	ac_populate スクリプトが機能する方法が変わったため、データベース設定で auto-commit を true に設定しなければなりません。この作業が必要なのは、インストール後にこれらのスクリプトを手動で実行する場合のみです。データベースによっては "true" がデフォルトの設定値である場合もありますが、IBM Unica 製品をインストールする前に設定を確認する必要があります。この値の設定方法については、ご使用のデータベースの資料を参照してください。

第 6 章 Campaign Reports Package

Campaign Reports Package は、キャンペーン、オファー、およびセルの実績を追跡するために使用できるレポート・スキーマを提供します。

Reports Package を使用するには、Campaign を IBM Cognos と統合している必要があります。

Campaign Reports Package には、以下の項目が含まれています。

- インストール時に Marketing Platform に登録されたスキーマ。これらは、製品のレポート・スキーマを表す属性とメトリックを記述したもので、以下のものが含まれています。
 - レポート・スキーマの基礎となる基本スキーマ (カスタム属性なし)
 - Campaign 用に事前構成されたカスタム属性に依存する、大部分の基本スキーマのカスタム・バージョン
 - 新しいスキーマを作成するために使用できるテンプレート
- IBM Cognos BI サーバーに配置される、IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos モデルとレポートについて説明した参照資料。これらの資料はディレクトリー ReportsPackCampaign¥cognos10¥CampaignDocs にあります。

Campaign レポートは、1 つのデータ・ソース、すなわち Campaign システム・テーブルからデータを取得します。

レポート・スキーマ

以下のレポート・スキーマが用意されています。

- 「キャンペーン・ビュー」では、Campaign システム・テーブルの標準属性ビューを見ることができます (キャンペーン、オファー、セルなど)。
- 「キャンペーン・カスタム属性」は、キャンペーン、オファー、およびセルのカスタム属性に関するレポートを作成するためのものです。
- 「キャンペーン実績」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、キャンペーン・レベルで開始される実績測定を表示するレポートで使用します。
- 「オファー実績」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、オファー・レベルで開始される実績測定を表示するレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファーのレスポンスの内訳」は、レスポンス・タイプに基づく、キャンペーンとオファーのレスポンスを示すレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳」は、コンタクト・ステータスに基づく、キャンペーンとオファーのコンタクトの測定に使用します。

カスタム・スキーマでは、上記にリストされたスキーマの最後の 5 つを拡張して、デフォルト、事前構成済みのレスポンス・タイプ、カスタム属性などを組み込みます。

テンプレート

追加のオーディエンス・レベルがある場合は、それらのために、以下のテンプレートを使用して追加のレポート・スキーマを作成することができます。

- キャンペーン・カスタム属性
- キャンペーン実績
- オファー実績
- キャンペーン・オファーのレスポンスの内訳
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳

レポート

Reports Package には Cognos サンプル・レポートが入っており、それらのレポートには、キャンペーンまたはオファーの「分析」メニューまたは「分析」タブからアクセスできます。またレポートは、ダッシュボード上のポートレットに表示することも可能です。

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポートは、キャンペーンの「分析」タブから取得できます。

- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの内訳
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー実績
- セル別のキャンペーン実績サマリー
- セル別のキャンペーン実績サマリー (収益を含む)
- オファー別のキャンペーン実績サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン実績サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン実績サマリー (収益を含む)

以下に示すオファーのサンプル・レポートは、オファーの「分析」タブから取得できます。

- "What If" オファー収支サマリー
- 日単位のオファー実績
- キャンペーン別のオファー実績サマリー

以下に示す、オブジェクト間で共通のサンプル・レポートには、Campaign の複数のオブジェクトに関する情報が含まれています。これらのレポートは、Campaign 分析ページから取得できます。

- "What If" オファー収支サマリー
- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの内訳
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー実績
- キャンペーン・パフォーマンス比較

- キャンペーン実績比較 (収益を含む)
- イニシアチブ別のキャンペーン実績比較
- セル別のキャンペーン実績サマリー
- セル別のキャンペーン実績サマリー (収益を含む)
- セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン実績サマリー
- オファー別のキャンペーン実績サマリー
- オファー別のキャンペーン実績サマリー (収益を含む)
- セルおよびオファー別のキャンペーン実績サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン実績サマリー (収益を含む)
- キャンペーン・サマリー
- オファー・キャンペーンのリスト
- 日単位のオファー実績
- オファー実績比較
- オファー実績メトリック
- キャンペーン別のオファー実績サマリー

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポート・ポートレットは、ダッシュボード・ページから取得できます。

- キャンペーン奏効率の比較
- キャンペーン投資収益率の比較
- オファー別のキャンペーン収益比較
- オファー・レスポンスの内訳
- オファー奏効率の比較
- 最終 7 日間のオファー・レスポンス

Campaign Reports Package の後方互換性に関する注記

このセクションでは、現行の Campaign Reports Package と、前のバージョンとの相違点をリストします。

Cognos のバージョンの互換性 (Cognos 8.4 から 10.1.1)

Campaign バージョン 8.6.0 と使用するには、IBM Cognos 10.1.1 が必要です。Campaign バージョン 8.6.0 では、Cognos 8.4 がサポートされなくなりました。Campaign をインストールまたはアップグレードした際に、cognos10 フォルダが作成されています。新たにインストールされたレポートはすべて、このフォルダの中にあります。Cognos が組み込まれた Campaign の、以前にインストールされたバージョンからアップグレードした場合、既存の cognos8 フォルダはそのまま残り、アップグレード前に作成または変更したレポートがすべて入っています。それらのレポートを使用するには、Cognos 10 の形式にそれらを変換し、新しい cognos10 フォルダに保存する必要があります。関連する情報については、「*IBM Unica Marketing Platform* リリース・ノート」と「*IBM Unica Marketing Platform* インストール・ガイド」を参照してください。

インストール・ディレクトリー名 (Campaign 7.x から 8.x)

Campaign Reports Package 8.x.0 のデフォルトのインストール・ディレクトリー名は、ReportsPackCampaign です。Reports Package の 7.5.x バージョンでは、デフォルトのディレクトリー名は ReportsPacksCampaign です。Reports Package の 7.5.x バージョンからアップグレードする際、バージョン 8.x のインストーラーは 7.5.x バージョンの存在を検出しません。したがって、7.5.x バージョンのアップグレードではなくて、Reports Package の新規インストールが実行されます。バージョン 8.x のインストールを実行した後、7.5.x のインストール・ディレクトリーを削除してください。

Campaign Reports Package の新機能

新しい Campaign レポート (ENH11085)

2 つの新しいレポートが Campaign で使用できるようになりました。詳しくは、「Campaign ユーザー・ガイド」を参照してください。

- セルおよびオファー別のキャンペーン実績サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン実績サマリー (収益を含む)

Campaign Reports Package の既知の問題

このセクションでは、IBM Unica Campaign Reports Package バージョン 8.6.0 における既知の問題を、問題番号順にソートしてリストします。

表 5. Campaign Reports Package の既知の問題

問題	ID	説明
「日単位のオファー実績」ダッシュボード・レポートに表示される、凡例の追加項目	DEF044226	「日単位のオファー実績」ダッシュボード・ポートレット・レポートにおいて、対応するオファーのない日付がレポートに入っている場合に、ラベルなしの追加項目が凡例に表示されます。
複数のパーティションで、レポート・フォルダー権限が同期される	DEF045222	Campaign 管理者が、Campaign の複数パーティション環境における単一パーティションに対してレポート・フォルダー権限の同期を試みる際、パーティションごとに別個の ReportSystem 役割がある場合であっても、すべてのパーティションにわたって同期が行われます。 注: 現行パーティションに属さないフォルダーの同期によって、許可の問題が発生することはありません。
アップグレード後に、7.5.1 のレポート・パック ZIP ファイルが残る	DEF046854	Campaign Reports Package 8.1.1 にバージョン 7.5.1 からアップグレードした後、7.5.1 レポート・パックの ZIP ファイルが <Unica_Platform_Home>/<Reports_Pack_Home>/cognos8 ディレクトリーに残ります。このファイルはアップグレード後は不要となるため、削除することができます。
「キャンペーン別のオファー実績サマリー」に、余分な行が表示される	DEF047315、 DEF047336	「キャンペーン別のオファー実績サマリー」レポートに、値が 0 と表示された余分な行が表示されます。

表 5. Campaign Reports Package の既知の問題 (続き)

問題	ID	説明
「キャンペーン別のオファー実績サマリー」に、コンタクト履歴またはレスポンス履歴のないオファーが表示される	DEF047336、 DEF047315	キャンペーンに割り当てられたオファーにコンタクト履歴またはレスポンス履歴のデータが存在しないのに、そのキャンペーンのオファーが「キャンペーン別のオファー実績サマリー」レポートに表示されます。
「オファー実績比較」に、コンタクト履歴のないオファーが表示される	DEF047745	「オファー実績比較」レポートに、コンタクト履歴が関連付けられていないオファーが表示されます。
レスポンス履歴にデータが設定されていない場合に、レポートに不要な行が追加される	DEF062120	キャンペーンのコンタクト履歴のみにデータを設定した場合、次のレポートに空の行が含まれます。セルおよびオファー別のキャンペーン実績比較 (Campaign Performance Comparison by Cell and Offer)、セルおよびオファー別のキャンペーン実績比較 (収益を含む) (Campaign Performance Comparison by Cell and Offer (with Revenue))。

IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM Unica 技術サポートに電話することができます。このセッションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境についての情報。

システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM Unica アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm>) を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、『www.ibm.com/legal/copytrade.shtml』をご覧ください。



Printed in Japan